

1 : 25,000 都市圏活断層図

岩国断層帯とその周辺

「岩国」「下松」

解 説 書

益田市

後藤秀昭 中田 高

平成 20 年 11 月

萩市

広島市

山口市

岩 国

岩国市

周南市

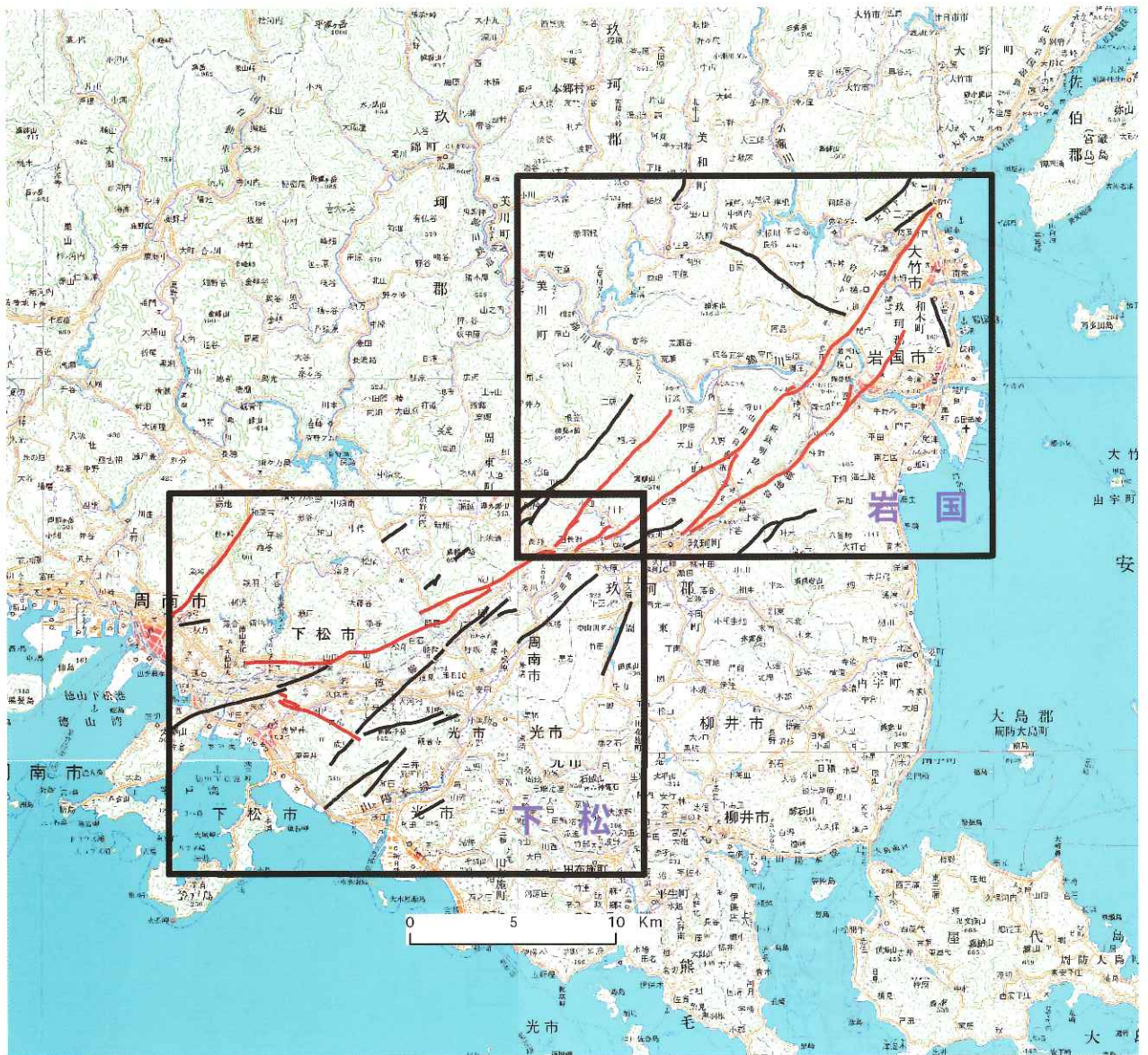
下 松

編集 国土地理院

複製・発行 (財) 日本地図センター

目 次

1. はじめに	2
2. 口絵	3
3. 岩国断層帯周辺とその周辺地域の地形と地質の概要	6
4. 岩国断層帯とその周辺の活断層の特徴	8
5. 河谷の屈曲量と断層活動	13
6. 活動性の評価	14
7. 参考文献	16
8. 使用空中写真・地形図, 情報整備検討委員会	17



都市圏活断層図作成地域図

1. はじめに

平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機に、活断層に関する情報の整備及び公開の必要性が高まってきた。これに応えるため、国土地理院では地震が発生した場合に甚大な被害が予想される都市域及びその周辺を対象に縮尺:2万5千分1「都市圏活断層図」を作成してきた。

図示している活断層は、活断層の研究者と共同で主に空中写真(1万分の1~4万分の1)を用いて、空中写真判読により調査している。

この図では「活断層」を、最近数十万年間に、約千年から数万年の間隔で繰り返し活動してきた跡が地形に表れているものであり、今後も活動を繰り返すと考えられる断層としている。このうち、風雨による侵食、堆積や人工的な要因などにより、地形が改変されているため、活断層の位置を明確に表示できない区間は破線とし、活動の跡が土砂の下に埋もれてしまっている区間は、点線で図示している。

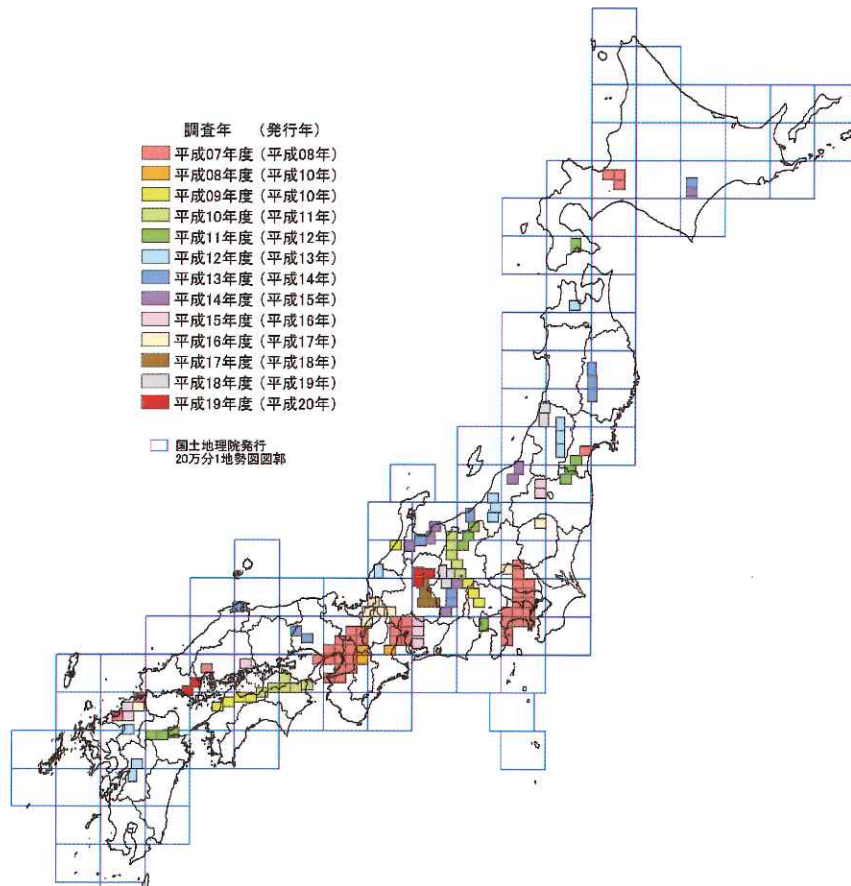
また、活断層の位置のほか、活断層に関連する

段丘地形・沖積低地・地すべり地形などの第四紀後期(数十万年前から現在)に形成された主な地形(面)も図示している。これにより活断層周辺の地盤状況の把握や、活断層の活動によって地すべりが再活動する可能性のある地域の推定など、防災に役立つ情報を読みとることができる。

都市圏活断層図1枚に表示されている範囲は、国土地理院刊行の縮尺:2万5千分の1地形図4枚分相当である。

都市圏活断層図の整備状況は、平成16年度までに三大都市圏、政令指定都市、県庁所在都市及びその周辺について124面(約50,000km²)を作成し、平成17年度より都市域周辺部(山間地域を含む)の主要な活断層について、新たに図示項目を追加して作成を開始している。これまでと合わせて138面(約55,000km²)を作成している。なお、活断層の模式図(逆断層、右横ずれ断層など)、活断層図のサンプル、整備範囲などは、以下の国土地理院のWebサイトで参照いただきたい。

(<http://www1.gsi.go.jp/geowww/bousai/menu.html>)



都市圏活断層図の整備状況

2. 口絵



写真1 大竹上空から北西方向を臨む

大竹断層の通る場所で小瀬川が大きく（約 2700m）右に屈曲する。矢印は大竹断層の通過位置（中田 高撮影）



写真2 大竹上空から南西方向を臨む

大竹断層は右下の小瀬川の屈曲部から直線状谷を通り、錦川の谷底に続く。（中田 高撮影）



写真3 岩国市甘木上空から北東方向を臨む

写真左下から中央奥に向かう直線状の山麓線（矢印）に沿って大竹断層が通る。（中田 高撮影）



写真4 岩国市甘木上空から北方向を臨む

正面に見えるのは大平山、山麓の活断層（矢印の間）に沿って河谷の系統的な右屈曲がみえる。（中田 高撮影）



写真5 岩国平野上空から北方向の大竹付近を臨む

北東-南西方向のリニアメントが多数見られる。右下に大竹断層の北東端付近が通る（矢印）。（岡田篤正氏撮影）

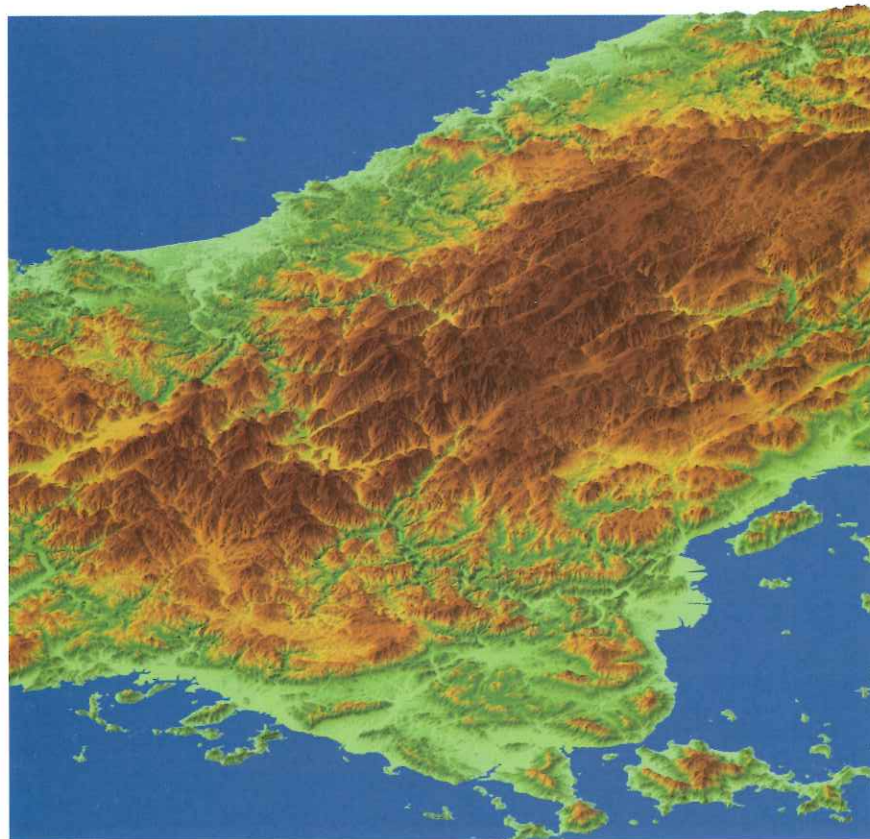


図1 周防灘上空から北方向の西中国山地を臨む

西中国山地には北東-南西方向のリニアメントが多数見られ、岩国断層帯はその南東端に位置する。岩国断層帯は山地と丘陵の境界にあり、断層帯より北東は小起伏な山地が広がる。数値地図 50m メッシュ（標高）から作成。